

今月第23号は阪和部大阪泉北クラブの遠藤 通関西日本区理事がご挨拶とお礼を申し上げます。



今期のEMC事業を振り返って

第22代 西日本区理事
遠藤通寛(阪和部大阪泉北クラブ)

皆様には、2018－19年度1年間をお支えいただきまして感謝申し上げます。我が家の周りには諸外国の要人が宿泊し、何時もと全く違う様相を呈しています。近くのホテルに、アメリカ合衆国大統領が宿泊されているのが不思議な気がいたします。G20は世界のこれからの方向を決定する訳ですから大変な会議と言えます。僅か2日間の協議で決定する訳ですから、その事前準備は大変だったと思います。

話を私たちが所属するワイズメンズクラブの将来像に戻してみますと、平成の30年間で多くの皆様と一緒に体験してきて、歴史的に見ればどうだったでしょうか。「日本ワイズメン運動70年史」を見ますと、はじめのうちは、バブル経済と共に急速に成長しています。何をしても成功するように思われた時代でもあったのでしょう。しかし、その後の阪神淡路大震災、リーマンショックと続く経済的打撃が、私たち奉仕クラブにも多大な影響を与えていることも知りました。今、多くのクラブで、この長期間にわたる経済低迷の影響を受けて、次のリーダーを育てられずに苦戦を強いられているクラブも多いように感じられます。

第19期と第22期を共に活動させていただいた、小野勅紘 EMC 事業主任は、膨大な統計資料を基に各クラブの傾向、部の状況を分析されました。すでに皆様にもEMCシンポジウムなどを通じて、ご案内されていると思いますが、各クラブの皆様も、是非ご自分の所属するクラブの傾向を再確認して対策の糧にしてみてください。

私は6月例会において、我が大阪泉北クラブ40人態勢と、阪和部における新クラブの設立を勝手に発表しました。「夢が無ければ力はいりません。目標は大きく持つこと」。これは敬愛する柴田先輩から教わったことです。私の任期は6月末を以って終了しますが、まだまだ直前理事としても、クラブの一メンバーとしても「支えなくなるYMCA」、「入りたくなるワイズメンズクラブ」を再認識しつつ、楽しいワイズライフの皆様と共に送っていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。1年間ありがとうございました。(大阪東天満にて)